

## ベトナム Japan ICT Week 2013・ダナン視察 報告

2013年10月23-25日、ベトナム・ハノイにおいて、Japan ICT Week 2013が開催された。参加者は約250名。うち、JISAからは、五十嵐 隆 副会長・国際連携委員長をはじめ13人、また現地参加を含め、日本人の参加者は計約60名だった。

23日の第1日目には、VINASA Cong 副会長・事務局長からの開会挨拶後、Hong ベトナム情報通信副大臣、Thanh ベトナム科学技術副大臣、在ハノイ日本大使館 三宅氏、JISA 五十嵐副会長・国際連携委員長よりそれぞれ挨拶が行われた。

続いて、ベトナム情報通信省 IT 副部門長 Hong 氏よりベトナムの ICT 産業の状況について紹介が行われ、また JISA 事務局より日本の ICT 産業の紹介とオフショア開発動向について発表を行った。引き続き、今回のイベントのスポンサーである NEC ベトナム上野氏と NTT データベトナム渡辺社長による発表、また富士通ベトナム松浦社長をはじめとする企業による日越間でのビジネス協力事例発表が行われた。

ランチを挟んで午後は、日越ソフトウェアビジネスのための人材育成というテーマでセミナーが行われた。オーテックベトナム林社長は、日越間でのビジネスをもっと推進するには、これまでのような下流工程のみのオフショア開発委託のみではなく、日本のビジネス習慣などを理解できる現地のプロジェクトマネージャーを育てる必要があると述べた。また、VJC (ベトナム-日本協力委員会) ファン委員長がモデレータとなり、パネルディスカッションも行われた。

セミナー修了後にはビジネスマッチングが行われ、日本側参加各社は30社近いベトナム企業との面談を行った。夜には、ネットワークキングディナーが行われ、日越両国の参加者間で懇親を行った。

翌24日にはダナンへ移動し、ダナンソフトウェアパークにおいて「ダナン ICT 企業とのビジネス協力について」というテーマのセミナーに参加した。

まずダナン人民委員会 アン副委員長からの歓迎挨拶と JISA 五十嵐副会長・国際連携委員長からの挨拶に続き、ダナン市情報通信部 Son ディレクターより、ダナン市における IT 産業推進政策について紹介が行われた。

ベトナム第3の都市であるダナン市は人口100万人、1256km<sup>2</sup>でGDP年成長率11-12%。IT産業に力を入れており、2012年のICT売上高は1億8300万米ドル、ソフトウェア輸出額は2080万米ドルで、どちらも50%以上の成長率となっている。市内には18大学と38トレーニングセンターがあり、毎年11,000人の若いICT人材が卒業している。セミナーを行ったソフトウェアパークのビルは2009年にオープンし、現在、日系企業7社、そのほかの外資系企業16社、計53社1500人が入っており、すでに95%入居済みで、第2ソフトウェアパークビルやITパーク等を計画中とのこと。

ダナン市への投資に対する優遇措置としては、法人税は4年間ゼロ、その後9年間は半

額、またアウトソーシングに関わる輸出入関税はゼロ、ソフトウェアパークの入居料 33% 減額、などがある。

バイクが非常に多いハノイやホーチミンに比べると、ダナンはバイクも車もまだ少なく、自然が美しく観光客の多いのどかな町という印象である。ICT 産業に関しては、市で注力していることもあり、インフラは整っているといえるが、ダナンにある ICT 企業はまだ小さいところがほとんどである。日本からダナンへの航空直行便も、この冬頃から復活するとのことで、今後、日本企業とダナン企業とのビジネスが増えることが期待される。

(国際部)